

2017 年度

聖学院大学

人間福祉スーパービジョンセンター

年次報告書

聖学院大学総合研究所

はじめに

2008年3月1日に「聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター」発足から今年度で10年の節目を迎えました。スーパービジョンセンターを設置している大学は、立ち上げ当初もおそらく日本で他にはないと自負していましたが、10年経った現在においても他大学で聞いたことはありません。

当時、私の元には週末になると、燃え尽きてしまう卒業生、学んだ理念と希望を胸に就職したものの現実に打ちのめされる卒業生、疑問に思ったことを上司や同僚に相談するものの事態は変わらずますます追い込まれて行く気持ちになる卒業生などが訪ねて来ていました。スーパービジョンの必要性を切に感じ、柏木昭先生（本センター顧問・本学名誉教授）、牛津信忠先生（センター委員会委員・大学院客員教授）、中村磐男先生（本センター委員会委員・大学名誉教授）が瞬く間に動いてくださり本センターが設立されました。

設立当初から年2回のピアスーパービジョンの開催のほか、個別スーパービジョン、グループスーパービジョン、スーパーバイザー支援制度を実施してきております。これまでに遠方では九州から通ってこられるスーパーバイザーがいらっしゃるなど、スーパービジョンに対するニーズは大きいことを実感させられます。他には類のないセンターであることを前述いたしました、決してニーズがないからではなく、一つにはスーパービジョンセンターを設置できる人材が揃っている大学がないということだと思っております。本学はソーシャルワーカーの第一人者と言える先生がたが揃っているからこそ為せる技だと思っております。

スーパービジョンは、専門性の向上を目的に自らのかわりについて振り返る機会をもちます。その結果、明日もまた頑張ろう、という気持ちになって現場に戻っていくことを応援したいと思っておりますし、それぞれのキャリアサポートとして、また一人一人が職業アイデンティティを確立し、やりがいのある職業人生を応援したいと思っております。前述の卒業生のような燃え尽きてしまったり、打ちのめされてしまったり、追い込まれてしまう実践家が継続して、そのような福祉現場を変えていくような人材になっていくことを応援したいと思っております。

創立以来、事務局として研究支援課職員の皆様には多くの業務のなかでスーパービジョンセンターの運営に多くのご支援、ご尽力をいただいておりますことに衷心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、今年度から当センター長および当センター委員会委員長をお引き受けさせていただきますこととなりました。前センター長中村先生、前センター委員会委員長牛津先生には立ち上げからの10年間をお導きいただきましたことに心より感謝申し上げます。

2018年3月

聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授  
聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンターセンター長/センター委員会委員長  
相川 章子

## 目次

I. 事業概要	3
1) 目的	3
2) 実施体制	3
3) プログラム	3
4) 報告書様式	4
II. 事業実績	5
1) スーパービジョンセンター委員会	5
2) スーパービジョン事業	6
(1) 聖学院大学グループ・スーパービジョン	6
(2) 個別スーパービジョン	6
(3) ピア・スーパービジョン	6-7
III. 2017年度予算	8
IV. 決算（2017年3月31日）	8
資料1 委員会記録	9-16
資料2 グループ・スーパービジョンへのお誘い	17-18
資料3 ピア・スーパービジョンプログラムと報告	19-23

## I. 事業概要

### 1) 目的

社会福祉の現場では、日々、さまざまな戸惑い、失敗、ゆれに直面することは少なくない。その結果、不安を抱えて仕事を続けることになり、孤立する人、未来を描けない人も少なくない。これらの壁を乗り越え、燃え尽きない(バーンアウトしない)ための方法として、「スーパービジョン」がある。スーパービジョンとは、スーパーバイザー(熟練したソーシャルワーカー\*)が、スーパーバイジー(経験の浅いソーシャルワーカー)に対し、その人の能力が最大限に引き出され、活用されるように支援するものである。具体的には、困難状況や事例に対する関わり方、不安や戸惑いに耳を傾け、受容し、有効なアドバイスをするものである。

### 2) 実施体制

＜スーパービジョンセンター委員＞

センター長：相川章子 聖学院大学人間福祉学部教授

委員長：牛津信忠 聖学院大学大学院人間福祉研究科客員教授

委員：中村磐男、柏木昭、助川征雄、田村綾子、小沼聖治

### 3) プログラム

#### ○ 個別スーパービジョン

スーパーバイザーによる個別のスーパービジョン(原則毎月1回程度)

#### ○ グループ・スーパービジョン ※2017年度は開催定員に満たず中止となった。

スーパーバイザーによるグループ・スーパービジョン(毎月1回)

#### ○ 研修交流会 ピア・スーパービジョン(年2回開催)

主にスーパービジョンに関する実践理論の勉強や経験交流の場を提供する研修会

#### ○ スーパーバイザー支援制度、同グループ版

すでにスーパービジョンを行っている人々をサポートする制度

＜場 所＞ 聖学院大学 他

＜スーパーバイザー＞

相川章子(精神保健福祉士)\*\*：人間福祉学部人間福祉学科教授

大野和男(社会福祉士・精神保健福祉士)：NPO法人ドレミファ会副理事長

小沼聖治(社会福祉士・精神保健福祉士)：人間福祉学部人間福祉学科助教・公益社団法人日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー

柏木昭\*\*\*：聖学院大学名誉教授・公益社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長

助川征雄(精神保健福祉士)：聖学院大学客員教授・全国精神保健福祉相談員会相談役

田村綾子(社会福祉士・精神保健福祉士)：人間福祉学部福祉学科教授・公益社団法人日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー

廣江仁(社会福祉士・精神保健福祉士)：社会福祉法人養和会理事長・公益社団法人日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー

行實志都子(社会福祉士・精神保健福祉士)：神奈川県立保健福祉大学准教授

＜コーディネーター＞

牛津信忠：聖学院大学客員教授

中村磐男：聖学院大学名誉教授

\*熟練したスーパーバイザーとは(社)日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザーとして精神保健福祉士国家資格を有する者などを言う。

\*\*聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンターセンター長・スーパービジョンセンター委員会委員長

\*\*\*聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター顧問 (2017年度現在)

#### 4) 報告書様式

聖学院総合研究所事務室宛 (FAX 048-781-0421)

聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター

実 施 報 告 書

年 月 日

スーパーバイザー氏名			
スーパーバイザー氏名		(GSV 記入)	人
実施スーパービジョン	<input type="checkbox"/> 個別スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> グループ・スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> スーパービジョン支援制度		
実施年月日	年 月 日 ( )		
実施時間	AM PM	時 分 ~	時 分
実施場所	① 聖学院大学 (教室名 )		
	②		
	③		
	④ その他 ( )		
事務局への要望			
質問			
その他			
相談料	金額 (支払方法)	会計担当	事務担当

## II. 事業実績

### 1) スーパービジョンセンター委員会

第1回委員会：5月24日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子

事務局：小野逸穂（記録）

第2回委員会：7月26日（水）11:30-12:30

場 所：2号館2409室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、相川章子

欠席者：助川征雄、田村綾子

事務局：小野逸穂（記録）

第3回委員会：9月20日（水）11:30-12:55

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子

欠席者：田村綾子（特別研究期間）

事務局：木下元、小野逸穂（記録）

第4回委員会：11月22日（水）11:40-12:40

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、小沼聖治

欠席者：田村綾子（特別研究期間）、相川章子

事務局：浅倉隆司、小野逸穂（記録）

第5回委員会：2月21日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、牛津信忠、助川征雄、相川章子、小沼聖治

欠席者：中村磐男、田村綾子（特別研究期間）

事務局：小野逸穂、浅倉隆司（記録）

各回の内容については、後ページ【資料1】内に掲載する。

## 2) スーパービジョン事業

### (1) 聖学院大学グループ・スーパービジョン

(With You さいたま 埼玉県男女共同参画推進センターセミナー室

第4水曜日 18:30~20:30)

6月より予定し参加者を募集していたが、開催定員に満たず中止となった。

案内チラシは、後ページ【資料2】内に掲載する。

### (2) 個別スーパービジョン

<助川征雄>

実施回数：延べ4回

場 所：助川研究室

人 数：1名

<相川章子>

実施回数：延べ6回

場 所：相川研究室

人 数：2名

<大野和男>

実施回数：延べ16回

場 所：4号館4405教室他

人 数：2名

<廣江 仁>

実施回数：延べ3回

場 所：聖学院新館他

人 数：1名

### (3) ピア・スーパービジョン

①第20回ピア・スーパービジョン 2017年10月14日(土) 10:00~15:30

場所：聖学院大学4号館4階第一・第二会議室

人数：23名(関係者含む総人数)

内容：

午前の部 講演「Trial and Error 福祉の本質へ帰還し、現実に戻る Trial and Error」

講師 牛津 信忠(うしづのぶただ) 聖学院大学大学院人間福祉研究科客員教授

鼎談 川田虎男(098W034)、山口雄太(110W096)、佐々木武

SWnet 主催ランチ交流会(参加の場合：実費1,000円程度)

午後の部 ピア・スーパービジョン

導入 SWnet

グループディスカッション

グループ発表（全体共有）

総まとめ 柏木 昭（聖学院大学名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問、  
社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長）

総合司会 山田裕太（SWnet 98W）

②第21回ピア・スーパービジョン 2018年2月3日（土）13：30～16：30

場所：聖学院大学4号館第一・第二会議室

人数：25名（関係者含む総人数）

内容：

第一部 講演「実践における「ゆらぎ」を専門職としての成長へつなげるために  
—見習いスーパーバイザー奮闘記より—

発題者 小沼聖治（おぬませいじ） 聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科助教

第二部 ピア・スーパービジョン

講演を受けて、参加者同士で実践を振り返る

総合司会 山田裕太（SWnet 98W）

ピア・スーパービジョンプログラムは、後ページ【資料3】内に掲載する。



### III. 2017 予算

#### 【収入】

項目	内容	金額
受講料	個別スーパービジョン	96,000
	個別スーパービジョン (卒業生)	14,000
	スーパーバイザー支援制度	8,000
	スーパーバイザー支援制度グループ版	120,000
合計		238,000

#### 【支出】

項目	内容	金額
報酬・委託・手数料	スーパーバイザー報酬 (個別・支援・支援グループ)	298,000
旅費交通費	スーパーバイザー交通費	50,000
通信・運搬費	グループSV, ピアSV 案内 (料金後納郵便)	79,000
印刷製本費	名刺作成 (柏木先生)	5,000
賃借料	さいたま新都心 GSV 会場 1 回分	2,000
合計		434,000

### IV. 2017 決算 (2018 年 3 月 31 日)

#### 【収入】

項目	内容	金額
受講料	個別スーパービジョン	168,000
	個別スーパービジョン (卒業生)	0
	スーパーバイザー支援制度	0
	スーパーバイザー支援制度グループ版	0
合計		168,000

#### 【支出】

項目	内容	金額
報酬・委託・手数料	スーパーバイザー報酬 (個別SV)	150,796
旅費交通費	スーパーバイザー交通費	32,212
通信・運搬費	グループSV, ピアSV 案内 (料金後納郵便)	78,896
印刷製本費	未使用	0
賃借料	さいたま新都心 GSV 会場 1 回分	1,940
合計		263,844

## 【資料1】2017年度 スーパービジョンセンター委員会記録

第1回委員会：5月24日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木 昭、中村 磐男、牛津 信忠、助川 征雄、相川 章子、田村 綾子

事務局：小野逸穂(記録)

1. 前回議事録承認

2. 報告事項

(1) 個別スーパービジョン

助川：5/25 1名実施予定

相川：2名実施

田村：実施なし

大野：3名実施

(2) スーパーバイザー支援制度

(3) グループ・スーパービジョン

○聖学院大学グループ・スーパービジョンについて

事務より報告

- ・4/26 発送、計692通（16年度卒業生、これまでのSVCプログラムの参加者、精神科のある近隣の病院（大野先生ご依頼）、近隣福祉施設）、さいたま市社会福祉協議会30部、日本精神保健福祉士協会埼玉支部5部
- ・開催場所は大野先生とも相談し、以前使用していた（さいたま新都心のWith You さいたま）とした。
- ・現在、申込1名、問合せ1名
- ・大学HP、総研HPへはGW明けより掲載、WAM NET(独立行政法人福祉医療機構が運営する福祉・保健・医療の総合サイト)のイベント・セミナー情報ページへ5/23から掲載。
- ・告知方法、告知先などあればお知らせください。

○その他

助川：さいたま市こころの健康センター 6月、2月実施予定

相川：杜の家

田村：医療法人財団シロアム会 地域活動支援センターかなめ（平山先生が関与の法人の地域活動支援センター）

(4) スーパーバイザー支援制度グループ版（戸塚）：柏木サロン

柏木：

(5) さいたま市社協のSVR 養成基礎講座

田村：8/2、10/4 実施予定

### 3. 活動について、検討確認事項

- ① スーパーバイザー支援制度グループ版（通称「柏木サロン」）修了者への証書授与について検討し  
「聖学院大学人間福祉スーパーバイザー支援制度課程修了者」とした証書を発行することとなった。  
→個別SV修了者への証書発行については、今後基準（実施時間や回数など）について内規を作成し検討していく。
- ② P S V日程（暫定9/30、2/3）について  
9/30 土が入試となり、秋の開催はOCがある日を検討し10/14 土となった。2・3月のOCは平日のため、春の開催は予定通り2/3（土）となった。
- ③ スーパーバイザーの委嘱状について
  - ・送付先（相川先生、田村先生、助川先生、大野先生、行實先生、廣江先生）  
→小沼先生（日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー講習8月終了後に依頼）  
長谷部先生、鶴さんの名前が挙げられたが、当センターのスーパーバイザーの要件などを確認する必要があるとの意見を受け、保留とした。  
→委嘱状に添付する挨拶文は相川先生へ依頼
- ④ 年次報告（2016年度）について  
聖学院情報発信システムSERVEに掲載予定。追加修正等の締切6/2（金）  
→肩書、資格について確認後修正
- ⑤ 事務より受講料、報酬について提案  
個別SV 一般受講料：6,000円、報酬：5,000円→4,000円へ変更  
卒業生受講料：2,000円→4,000円へ変更、報酬：2,000円（16年度より）  
GSVや柏木サロンが実施されない場合、案内チラシ送代、交通費などで赤字となる。今後収入を増やしていくことを考えるとともに、受講料と報酬の割合を検討していくことなどが必要との提案をした。  
→一般受講者と卒業生でプログラムは同じだが、報酬が異なることに異議が出た。（報酬：一般5,000円、卒業生2,000円）いつから報酬金額が変わったのか説明を求められ、後日報告することになった。  
→来年度に向けた変更であることを確認し、支出も含めて予算全体の見直しを含めて引き続き検討することとし、提案については保留とした。

第2回委員会：7月26日（水）11:30-12:30

場 所：2号館2409室

出席者：柏木 昭、中村 磐男、牛津 信忠、相川 章子

欠席者：助川 征雄、田村 綾子

事務局：小野逸穂（記録）

1. 前回議事録承認
2. 報告事項
  - (1) 個別スーパービジョン  
助川：2名実施  
相川：8/26 1名実施予定  
田村：実施なし  
大野：3名実施 8/4、8/18 各1名実施予定
  - (2) スーパーバイザー支援制度
  - (3) グループ・スーパービジョン  
○聖学院大学グループ・スーパービジョンについて  
事務より報告  
・5/31の締切りを延長6/19したが、申込みは3名で中止となった。(Oさん、Sさん、Hさん) その他問合せ2件(Kさん他1名)  
  
助川：さいたま市こころの健康センター  
  
相川：杜の家  
  
田村：医療法人財団シロアム会 地域活動支援センターかみなめ (平山先生が関与の法人の地域活動支援センター)
  - (4) スーパーバイザー支援制度グループ版(戸塚)：柏木サロン  
事務より報告  
・修了証書6/24発送(2016年度6名分)。
  - (5) さいたま市社協のSVR養成基礎講座、四国更生保護委員会SVR養成研修  
田村：8/2((申込37名予定)、10/4(応用研修)
3. 活動について、検討確認事項
  - ① PSVについて
  - ② 受講料・報酬について  
事務より報告(前回の委員会をうけて)
  - ③ 委嘱状について  
助川、田村、相川、行實、廣江、大野(敬称略)各先生方へ6/8送付。

第3回委員会：9月20日(水) 11:30-12:55

場 所：4号館4405室

出席者：柏木 昭、中村 磐男、牛津 信忠、助川 征雄、相川 章子

欠席者：田村綾子、(特別研究期間)

事務局：木下 元、小野逸穂(記録)

1. 前回議事録承認

2. 報告事項

(1) 個別スーパービジョン

助川：1名実施

相川：1名実施

田村：実施なし

大野：4名実施 10/11、10/27 各1名実施予定

(2) スーパーバイザー支援制度

(3) グループ・スーパービジョン

○聖学院大学グループ・スーパービジョン（今年度は実施無し）

○その他

助川：さいたま市こころの健康センター

次回は2月に予定

相川：杜の家（月1回のコンサルテーション）

スタッフを含めピアスーパービジョンを実施

田村：医療法人財団シロアム会 地域活動支援センターかなめ（平山先生が関与の法人の地域活動支援センター）

(4) スーパーバイザー支援制度グループ版（戸塚）：柏木サロン（今年度は実施無し）

(5) さいたま市社協のSVR 養成基礎講座、四国更生保護委員会 SVR 養成研修

田村：8/2（申込37名予定）、10/4（応用研修）

3. 活動について、検討確認事項

① PSV（10/14土）について

検討事項

・プログラムについて

開会の挨拶は助川先生、閉会の挨拶は中村先生が対応して下さることを確認した。

前回の検討事項

・SWnet について卒業生の認知度を上げることを引き続き検討することとし、今年度中に学科へ連携を提案することとした。

・W学科で20周年記念イベントをヴェリタス祭時に検討しており、SWnet の宣伝や卒業生のアドレス収集など提案することになった。

事務より報告

→SWnet のメーリングリストについて確認したところ、山田裕太さんが事務局として55名分位のメールアドレスを所持とのこと。（PSV案内メール9/2送付済）

② スーパーバイザー登録の基準について、スーパービジョン修了認定について

相川委員長より提案された案について検討し、修正をもって本日付で承認とした。

- ③ 次年度に心理福祉学部心理福祉学科（こども心理学科と人間福祉学科が統合）が開設した時のSVCの課題について
  - ・心理のSVを行うこと、新学科でSVCについて話題にすることを検討し、これまでのSVCを引続きおこないつつ、新学科でも認知されるよう実習担当者会議でプログラムの宣伝などしていくこととなった。
- ④ PSV（2/3土）について  
次回委員会（11/22水）での検討となった。
- ⑤ 『人間福祉スーパービジョン』の学術・研究機関（大学図書館等）向け電子(PDF)提供について
  - 在庫があるのに電子データを提供することについて中村先生より説明を求められた。
    - ・契約先は丸善 eBook ライブラリーで他大学出版部も多く契約している媒体
    - ・販売先は学術教育機関（大学図書館、研究所、病院、企業）
    - ・1アクセスまたは、3アクセスで閲覧権を販売する
  - 著者（編著者だけでなく）の許諾を与えることについて承認した。
- ⑥ 報酬について（継続議題）  
受講料の変更（卒業生料金の撤廃）とチラシ郵送料の削減による効果を収支の点で整理し、事務より報告後、検討していくこととなった。
- ⑦ 福祉学科の小沼聖治先生のスーパーバイザー登録、SVC委員になることについて検討し承認した。（委員会は11月より参加）

第4回委員会：11月22日（水）11:40-12:40

場 所：4号館4405室

出席者：柏木 昭、中村 磐男、牛津 信忠、助川 征雄、小沼聖治

欠席者：相川章子、田村綾子（特別研究期間）

事務局：浅倉隆司、小野逸穂（記録）

1. 前回議事録承認
2. 小沼聖治先生が新しく委員として紹介された。
3. 報告事項
  - (1) 個別スーパービジョン
    - 助川：Mさん（怪我のため休止）
    - 相川：Fさん（10月予定）
    - Tさん（新規）10/28、11/11 実施

田村：実施なし

大野：2名実施 11/22、12/15 各1名実施予定

(2) スーパーバイザー支援制度：なし

(3) グループ・スーパービジョン

○聖学院大学グループ・スーパービジョン（今年度は実施無し）

○その他

助川：さいたま市こころの健康センター次回は 1 月に予定

相川：杜の家（月1回のコンサルテーション）スタッフを含めピアスーパービジョンを実施

田村：医療法人財団シロアム会 地域活動支援センターかなめ  
（平山先生が関与の法人の地域活動支援センター）

(4) スーパーバイザー支援制度グループ版（戸塚）：柏木サロン（今年度は実施無し）

(5) さいたま市社協の SVR 養成基礎講座、四国更生保護委員会 SVR 養成研修

田村：

### 3. 活動について、検討確認事項

#### ① PSV (2/3 土) について

- ・SWnet よりプログラムを午後半日でおこないたい意向があり承認した。
- ・プログラムの講演部分を小沼先生へ依頼した。
- ・開会挨拶は助川先生が担当されることになった。
- ・今後の PSV について、集まりやすい場所（2 回の内 1 回を都内にするなど）、学科の先生方との連携（考え方、重点の置き方）、受け皿としての卒業生からの必要性、など検討した。

#### ② 報酬について（継続議題）

事務より報告

○現在の収支について

- ・現在、収入は個別 SV のみとなっており、収入の多くが報酬に充てられている。
- ・支出（赤字となっている案内発送など通信費）について
- ・現在、卒業生のプログラム利用はない（今年度から卒業生料金は撤廃している）

### ③ その他

○プログラムの告知方法について

- ・登録しているアドレスは変更される可能性が高く、SWnet がリストのメンテナンスをすることは難しい →ネットワーク作りから始める必要がある

○20周年記念行事(3/21)時のSVのPRなどについて

- ・SVCの紹介、勧誘、今後のネットワークについてのお願いなど、助川先生から相川先生へ提案する。またSVの抜本的な方針などについて、今後検討していく。

#### 第5回委員会：2月2日(水) 11:40-12:50

場 所：4号館4405室

出席者：相川 章子、柏木 昭、牛津 信忠、助川 征雄、小沼聖治

欠席者：中村 馨男、田村 綾子

事務局：浅倉隆司(記録)、小野逸穂

#### 1. 前回議事録承認

#### 2. 報告事項

##### (1) 個別スーパービジョン

助川：Mさん(怪我のため休止)⇒2018年4月以降、学外での実施希望の申出あり。

相川：Kさん⇒体調不良のため、3月14日より再開予定。

Tさん(新規)⇒遠方のため、電話やメールでの相談有。

田村：実施なし

大野：Kさん 12/22実施、2018.4/20予定

Iさん 1/17実施、2/21(大野先生インフルエンザにより中止。3/14に振替実施。)

廣江：Mさん 12/9、1/25実施

##### (2) スーパーバイザー支援制度：なし

##### (3) グループ・スーパービジョン

○聖学院大学グループ・スーパービジョン(今年度は実施無し)

○その他

助川：さいたま市こころの健康センター

相川：杜の家(月1回のコンサルテーション)スタッフを含めピアスーパービジョンを実施



田村：医療法人財団シロアム会 地域活動支援センターかなめ（平山先生が関与の法人の地域活動支援センター）

(4) スーパーバイザー支援制度グループ版（戸塚）：柏木サロン（今年度は実施無し）

(5) さいたま市社協の SVR 養成基礎講座、四国更生保護委員会 SVR 養成研修

田村：

### 3. 活動について、検討確認事項

#### ① 18年度事業計画・予算について

##### 事務より報告

- ・17年度収支について報告を行い、収支差額で赤字になっている説明を行った。
- ・案内発送など通信費について、収支差額で赤字になっている原因のひとつとして通信費が一因となっている旨を説明した。  
相川先生より3月20日に開催される人間福祉学科20周年記念会の際に、チラシ等を用いて、SVCを周知させるとの報告があった。
- ・18年度の予算について、収支差額で赤字になっている状況に鑑み、18年度予算は0（ゼロ）円で計上している旨の説明を行った。  
小沼先生より、Webやメールリングリストを用いて、周知させたら如何かという意見が出された。

#### ② 18年度GSVについて

- ・スケジュール（4月中に案内発送、5月末締切り、6月開始）について説明を行い承認された。
- ・担当講師、場所、案内方法（郵送、SNS他）について説明を行い、案内方法についてはSNS、メールリングリスト、ホームページ等で告知するということを確認した。  
また、18年度のGSVについては、田村先生が柏木先生より引き継いでいるので、後日、田村先生の意向を確認したい。  
開催回数及び費用は従来通り全10回とするが、最低人員を10名から4名に変更したい。  
変更の了承については、後日田村先生にも確認することとしたい。

③ 18年度PSV日程について、2018.10/13（土）、2/2（土）に行うことについて説明を行い、原案通り承認された。

#### ④ 17度年次報告書について

##### 事務より

- ・はじめに、の挨拶分については、相川先生に3月末迄に決めていただくこととした。
- ・その他グループ・スーパービジョンの報告

【資料2】

聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター

## 2017年度 グループ・スーパービジョンへのお誘い

保健・医療・福祉現場や企業で対人援助の仕事をしている方々へ

指導をしてくれる先輩職員がいない・・・  
先輩職員が忙しそうで、聞きたくても聞けない・・・  
諸事情で新人教育ができない・・・  
よくわからないまま目の前の仕事をこなしている・・・

—そんな不安や戸惑いを抱えながら働いている人は少なくありません—

**グループ・スーパービジョンは  
仲間とともに学び成長しあえるプログラムです。**

2017年度は6月から開講します。実践のレポートをもとに自身のソーシャルワーカーとしてのかわりについて互いにふりかえる機会を持ちましょう。

**日 時：2017年6月～3月 第4金曜日 18:30～20:30**  
予定：6/30、7/21、8/25、9/22、10/27、11/24、12/22、1/26、2/23、3/23

**会 場：With You さいたま 埼玉県男女共同参画推進センターセミナー室**  
(JRさいたま新都心駅徒歩8分、JR埼京線北与野駅徒歩7分)  
ホテルプリランテ武蔵野 3・4階 〒330-0081 さいたま市中央区新都心 2-2

**費 用：¥30,000円 (前年度から継続受講の方及び本学卒業生は¥20,000)**

**担 当：大野和男 (NPO 法人精神障害者のあすの福祉をよくする三浦市民の会びあ三浦  
理事長、社団法人日本精神保健福祉士協会相談役、元聖学院大学非常勤講師)**

**定 員：10名 (お申込み人数が6名から開催します。)**

- ◆原則として1年を通して参加していただくこととなります。
- ◆受講申込書に必要事項を記入し写真添付の上、郵送でお申し込みください。
- ◆申込締切 2017年5月31日(水)必着
- ◆ご不明な点はお気軽にお尋ねください。

**聖学院大学**  
人間福祉スーパービジョンセンター  
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号  
TEL048-725-5524 FAX048-781-0421  
Email: research@seigakuin-univ.ac.jp



## その他のプログラムのご紹介

ご希望の方は、同封の受講申込書にご記入・写真添付の上、下記へご郵送ください  
ピア・スーパービジョンは受講申込書郵送以外に、メール・電話でもお申込みいただけます。  
ご不明点等お気軽にお問い合わせください。



### <個別スーパービジョン>

グループ・スーパービジョンの日時では都合がつかない、個別の事情に合わせた相談をしたいという方へ

日時：相談の上、希望の日で調整 1回 1.5時間程度

会場：聖学院大学、その他各地

費用：1回¥6,000 聖学院大学卒業生は1回¥2,000

※講師には、本学人間福祉学科教員の助川征雄、相川章子、田村綾子をはじめ、大野和男、廣江仁など学外からも精神保健福祉士、社会福祉士の資格をもつ教員が講師を務めています。



### <スーパーバイザー支援制度>

すでに現場でスーパービジョンを行っている、後輩や部下に指導を行う立場にあるという方へ

日時：相談の上、希望の日で調整 1回 1.5時間程度

会場：聖学院大学、その他各地

費用：1回¥8,000 聖学院大学卒業生は1回¥5,000



### <ピア・スーパービジョン>

必要な知識や日々の業務を見直す研修会に参加したい、対人援助職同士で情報交換をしたいという方へ

日時：10月初旬頃を予定しています

会場：聖学院大学

内容：講演、報告、グループディスカッション、など

費用：無 料（ランチ交流会、懇親会に参加する場合は会費別途）



#### 交通アクセス方法

○宮原駅（JR 高崎線）

学生バス 10分または徒歩 20分

○西大宮駅（JR 川越線）

学生バス 10分

○日進駅（JR 川越線）徒歩 20分

時刻表は大学 HP よりご覧いただけます。

## 聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎 1 番 1 号 TEL.048-725-5524 FAX.048-781-0421

Email: research@seigakuin-univ.ac.jp

## 【資料3】



## プログラム

2017年10月14日(土)10:00(受付9:30)～15:30 終了予定  
聖学院大学4号館4階4402教室(第一会議室)

総合司会 山田裕太(SWnet)

10:00～10:10 開会挨拶 助川征雄 (聖学院大学大学院人間福祉学研究科客員教授)

10:10～11:10 講演会

発題 Trial and Error

人間福祉の本質へ帰還し、現実に戻る

Trial and Error

うしづのぶただ

発題者 牛津信忠 聖学院大学大学院人間福祉学研究科客員教授

11:10～11:15 休憩

11:15～12:00 鼎談 川田虎男(098W034)・山口雄大(110W096)・佐々木武

12:00～13:15 SWnet 主催 ランチ交流会 (参加の場合:実費1,000円程度)

13:15～15:20 ピア・スーパービジョン

13:15～13:30 導入 SWnet

13:30～14:45 グループ・ディスカッション

14:45～15:00 グループ発表(全体共有)

15:00～15:20 総まとめ 柏木昭 (聖学院大学名誉教授、聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター顧問、  
公益社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長)

15:20～15:30 閉会挨拶 中村馨男 (聖学院大学名誉教授)

♪ 懇親会 :プログラム終了後、SWnetの企画による懇親会があります。  
会場:「庄や」宮原店(宮原駅東口徒歩2分) TEL 050-5280-2490  
時間:18:00～  
会費:別途

♪ 学生バス  
本日は無料でご利用いただけます。時刻表は掲示の時刻表をご確認下さい。

2017年度 聖学院大学総合研究所  
 聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet 共催  
 第20回ピア・スーパービジョン報告



開会挨拶：中村磐男先生（上段左）  
 講演：牛津信忠先生（下段右）

2017年10月14日（土）、聖学院大学4号館第一・第二会議室を会場に、「第20回ピア・スーパービジョン」（聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet [聖学院ウェルフェアネット卒業生を中心とする福祉のネットワーク] 共催）が出席者25名を集めて開催された。開会の挨拶は、中村磐男氏（聖学院大学名誉教授）が務められた。総司会は、山田裕太氏（SWnet）が務められた。

第1部（午前の部）の講演は、牛津信忠氏（聖学院大学大学院人間福祉学研究所客員教授）が担当された。講演会後、卒業生の川田虎男氏（司会）、山口雄大氏、SWnet所属の佐々木武氏から、牛津氏へ現場から発していることを投げかけるかたちでシンポジウムをおこなった。ランチ交流会を挟んだ後、第2部（午後の部）では、冒頭で川田虎雄氏が導入を担当された後、ピア・スーパービジョンを行った。

牛津氏の講演は、「Trial and Error人間福祉の本質へ帰還し、現実に戻る」と題されて行われた。人権の平等は、憲法はもとより国際的にも保障されている。しかし、人権無視と思える社会認識が

存在している。いつも、帰る場所を心のうちに堅固にもっておくことは必要である。本質に帰還しつつ、考えをしっかりと確認して行動し、福祉の再構成を続けて行うことが重要である。また、人間における価値には、存在価値（キリストの愛に在って生きる在り方）と利用価値（自分に利することを求める考え方）の二つがある。我々は、存在価値に立つ考え方をしっかりと受け止めながらも、利用価値の考えをも人間の常なる姿と理解しつつ、基本においては、人間の社会的価値という意味での存在価値を重視していくことが大切である。現実における試行錯誤の為には次の6点が重要である。①地域福祉（地域という生活態における人としての人生づくり）を重要視して行うこと。②地域における共生、共楽、共苦、共育の現実化の一步一步を歩むこと。③「潜在能力の自由度の確保」と「その条件設定領域の開発」の行わないし行動の場が、自我的な主体と「人格」主体の連続性を形作る連結の場そのものであること。④また、その連結項を経て、相互的人格主義の「生」ないし「生活」への浸透が果たされていくこと。⑤ハーマン等による「自己」と「対話」についての実践上の位置づけがあること。⑥「対話的自己」と福祉のプロセスの考察があること。

シンポジウムでは、山口氏と佐々木氏が、現場の状況を踏まえつつ、牛津氏の講演に対するレスポンスを行った。山口氏の「障害者区別の際に、条件を整えることは、差別につながるのではないか、変な区別をしてしまうことがあるのではないか」という質問に対して、牛津氏は、「なぜ、条件を整えると変になるのか。条件の設定の仕方を、寄り添いつつ、よりきめ細かい条件を整えていけばよい」と応答された。また、佐々木氏の「障害者雇用はストレスとの闘いである。正社員になりたい人がなれない現状がある。雇用において障害者枠が形骸化している。どうしたらよいか」という質問に対して、牛津氏は、「力の問題もある。政

治の力を借りて変えられもする。みんなで変わるべきものを変えていこうとする志向性が大切である。一人一人が光を放つあり方を探求する中で、この子ら（困難を担う人）を世の光とする道が用意されていく。人がその人自身となって生きる道、一人一人にこの道を探しだしていくのが、真に社会福祉なのである」と応答なされた。

第2部の「ピア・スーパービジョン」では、少人数のグループに分かれ、スーパービジョンを行った。実際のピア・スーパービジョンの内容は、議論の性質上割愛させていただくが、自己紹介を交え、和やかな雰囲気の中で、率直な意見交換がなされた。お互いの考えや価値観を尊重し、認め合う傾聴と受容の姿勢が印象的であった。「今回もこの会に参加して、いろいろ話すことができてスッキリした、気持ちよかった」という声も聞くことができた。

グループ発表後、柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問）が総括を語られた。日々の働きの中で、ソーシャルワーカーはクライアントと真摯に向き合い、主体と主体の葛藤を通して、互いに成長して行ってほしい。この会を継続し、更に発展させてほしいとの内容であった。閉会の挨拶を相川章子氏（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授）が担当され、今回も贅沢なとても良い時間を過ごすことができ感謝、この会の親密な関わりと雰囲気をこれからも大切にしていきたいと締めくくられた。

（文責：吉田 進 [よしだ・すすむ] 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科博士後期課程）

主 催：聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター  
共 催：人間福祉学科・SWnet(聖学院ウェルフェアネット  
—卒業生を中心とする福祉のネットワーク)



2018年2月3日(土)13:30(受付 13:00)～16:30 終了予定  
聖学院大学 4号館 4階 4402教室(第一会議室)

## プログラム

総合司会 山田裕太 SWnet

13:30～13:40 挨拶・講師紹介 助川征雄 聖学院大学大学院人間福祉研究科客員教授

13:40～14:40 講演

発題：実践における「ゆらぎ」を専門職としての成長へつなげるために  
——見習いスーパーバイザー奮闘記より

発題者：小沼 聖治(おぬませいじ) 聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科助教

14:40～14:50 質疑応答

14:50～15:00 休憩

15:00～16:25 ピア・スーパービジョン

15:00～15:05 導入 SWnet

15:05～16:05 グループ・ディスカッション

16:05～16:15 グループ発表(全体共有)

16:15～16:25 総まとめ 当センター委員およびスーパーバイザーからのコメント、感想

16:25～16:30 閉会

### ♪ 懇親会

プログラム終了後、SWnetの企画による懇親会があります。

参加歓迎・会費別途

懇親会会場：「庄や」宮原店(宮原駅東口徒歩2分) TEL050-5280-2490 17時30分開始

### ♪ 学生バス

お帰りのバスをご利用の際は、バス乗車券を運転手にお渡し下さい。

### ♪ バス時刻表

宮原駅西口行 15時10、30分、16時10、35、55分、17時15、35、55分

西大宮駅北口行 15時05、40分、16時30、50分、17時25分

2017年度 聖学院大学総合研究所  
 聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet 共催  
 第21回ピア・スーパービジョン報告



小沼聖治先生（中段左）、助川征雄先生（中段右）

2018年2月3日（土）、聖学院大学4号館4402教室（第一会議室）を会場に、「第21回ピア・スーパービジョン」（聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・人間福祉学科・SWnet（聖学院ウェルフェアネット卒業生を中心とする福祉のネットワーク）共催）が、27名の参加により行われた。開会あいさつは、助川征雄氏（聖学院大学大学院人間福祉学研究所客員教授）が、また、総合司会は山田裕太氏（SWnet）が、それぞれ担った。なお、助川氏からは、「ピア・スーパービジョンとは何か」の資料も提供された。

第1部の講演は、小沼聖治氏（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科助教）により、「実践における「ゆらぎ」を専門職としての成長へつなげるために一見習いスーパーバイザー奮闘記より」の論題のもとに行われた。小沼氏は、自身の体験と知見とをもとに、「ゆらぎ」を、「援助者、クライアント、家族などが経験する動揺・不安・迷い・わからなさ・不全感・挫折感等の総称」と規定したうえで、社会福祉の実践は、「ゆらぎ」に直面し、その体験から学ぶことで、専門性や技術性を高めることができる、すなわち、

「ゆらぎ」は社会福祉実践の原点であることを強調した。その「ゆらぎ」と向き合う過程における、多角的な視野と、しなやかなかわりの必要性、また、バランスのとれたスーパービジョンが「ゆらぎ」を成長につなげるためには不可欠であることが説明されたうえで、その過程が、「ゆらぎとの向き合い＝俯瞰」→「ゆらぎの言語化」→「ゆらぎを活用する糸口へ」と、図示されたことは聴衆の理解を明確化させることに大きな力となった。実践を踏まえた総括として「ゆらぎ」と自然に向き合える風土（環境）の重要性が指摘されたことも、「ゆらぎ」を自己の努力に帰結させがちな現状改善への指針として聴衆も認識を新たにしたことであった。

第2部「ピア・スーパービジョン」では、「介入」のタイミングのむずかしさを通して感じる、『手は尽くしてきたけれど、あのときどうすべきだったか…』という思いへの向き合い方、あるいは、「支援の方向性と当事者の意志の差異への向き合い方」等の、具体的な「ゆらぎ」に直面している事例が紹介され、参加者の多様な経験と職種における専門性からの語りあいが行われた。その中で、個々のケースにおいて、ポジティブにうけとる事象の確認、当事者の目的意識を把握する大切さが共有された。小沼氏からは改めて、「ゆらぎ」を感じるものの背景にある課題認識と、「ゆらぎ」のレベルの客観視のためにも、ピア・スーパービジョンが大切であり、また、そのピア・スーパービジョンにおいても利害関係は生じるものであるから、それを理解したうえで、利害関係を超越していく指向の必要性が指摘された。

閉会にあたり、相川章子氏（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授）から、「ゆらぎ」が成長につながる、という原点の確認と、日本の現状についての示唆（哲学の共有の弱さ）がなされ、次回の再会を約したことであった。

（文責：小野久志 [おの・ひさし] 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所博士後期課程）